

日蓮大聖人御書全集

なんじょうどののにようぼうごへんじ

南条殿女房御返事

新版  
1876

なんじようどののにようぼうごへんじ

# 南条殿女房御返事

こうあんがんねん

がつ にち

さい

なんじようときみつ

つま

弘安元年 ('78) 5月24日

57歳

(南条時光の妻)

こめにたわら おく た そうら お

たびたび おんこころざし もう

八木二俵、送り給び候い了わんぬ。度々の御志、申

つ がた そうろう

し尽くし難く候。

そ みず かんつ こおり ゆき としかさ すいしよう

夫れ、水は寒積もれば氷となる、雪は年累なつて水精と

あくつ じごく

ぜんつ ほとけ

によにん

なる。悪積もれば地獄となる、善積もれば仏となる。女人

しつと どくじや

ほけきようくよう くどく

は嫉妬かさなれば毒蛇となる。法華経供養の功德かさなら

りゆうによ 跡 継

ば、あに竜女があとをつがざらん。

やま かわ うま げにん

山といい、河といい、馬といい、下人といい、かたがた

難 艱

なんかんのところに、たびたび度々の御志、おんこころざし申すばかりなし。

ごしよろうひと りんじゆうしようねんりようぜんじようどうたが

御所勞の人の臨終正念、靈山淨土疑いなかるべし。

ごがつにじゆうよつか

五月二十四日

にちれん日蓮 かおう花押

ごへんじ

御返事